

42年ぶり「原発ゼロ」

北電泊3号機が定検入り

北海道電力泊原発3号機（北海道泊村）が5日午後11時3分、発電を止めて定期検査に入り、国内の商業用原発50基がすべて停止した。全原発停止は1970年以来、42年ぶり。ゼロ」の事態に直面した。（2・3・26面に関連記事）

全50基停止 夏に影響も

政府が進める関西電力大飯原発3、4号機（福井県）などの再稼働はめどが立っておらず、電力需要の高まる夏に向け生活や産業に影響が出る恐れが高まっている。事故を教訓に原発に依存しない社会をつくる転機となった。90年代には沖縄電力を除く電力9社すべてが原発を保有して現在の体制が固まった。

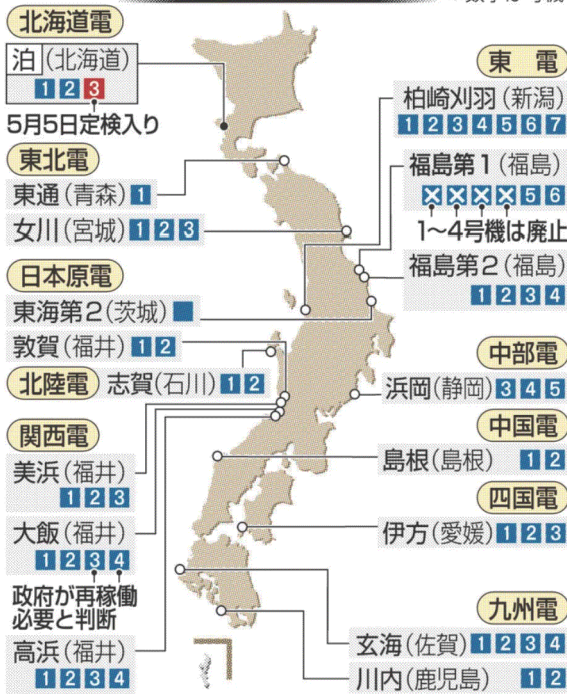
管内で電力不足に陥る恐れがあり、家庭や企業は一段の節電を求められる。

政府は今夏に、総合資源エネルギー調査会が新たなエネルギー計画をまとめるを受け、原発の将来像を含めた政策の在り方を示す。

管内で電力不足に陥る恐れがあり、家庭や企業は一段の節電を求められる。

全国の原発

※数字は号機



この3月に東電柏崎刈羽6号機（新潟県）が止まり、稼働中は泊3号機だけとなっていた。電力各社は火力発電などの増強で対応しているが、原発が再稼働せずに猛暑となった場合、北海道、関西、九州の3電力